

派遣留学生帰国報告書

* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2018/9/30
所属学部	融合理工学府
所属学科・専攻	創成工学デザインコース

1. 留学先について

留学先大学名	ケルン応用科学大学／ナント大西洋デザイン大学							
留学先所属学部等	Integrated Design / Retail and Interior course							
留学期間	出発日	2017/9/6	入学日	2017/10/2	修了日	2018/6/25	帰国日	2018/8/18
住居	大学(紹介)の寮・アパート		<input type="radio"/> 民間アパート		その他()			
	通学時間	30				On campus		
	通学方法	トラム／バス						
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室		() 人部屋		その他()		
	共有スペース	<input type="radio"/> 完全個室		<input type="radio"/> キッチン	<input type="radio"/> トイレ	<input type="radio"/> バス	<input type="radio"/> リビング	その他()
食事	自炊	80 %	学食	5 %	外食	15 %	その他	() %
保険	海外旅行保険(名称)	ステップイン						
	派遣先大学指定の保険(名称)						強制加入	
	その他							
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)							
	成田 ⇄		フランクフルト(飛行機)			⇄ ケルン(電車)		

2. 留学にかかった費用について

総費用	220万 円							
出どころ								
自費	貯金	円	アルバイト	円	その他	円		
援助	<input type="radio"/> 両親	60万 円	家族・親戚	円	その他	円		
奨学金	JASSO	円	<input type="radio"/> その他名称(トビタテ)	円	160万 円			
その他	千葉大学助成金	円	その他()	円				

2-1. 財政管理の方法										
渡航時	<input type="radio"/>	現金	5万 円			その他 () 円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	その他 ()

2-2. 各費用の支払い方法									
大学に払った費用	現地の銀行窓口で振込								
住居にかかった費用	現地の銀行窓口で振込・口座から引き落とし								
その他									

2-3. 内訳									
費目	外貨金額				円貨金額				
	通貨単位								
渡航費(往復)					16万 円				
海外旅行保険	ユーロ	939			125,000 円				
OSSMA					2万 円				
査証・在留許可証	ユーロ	100(ドイツ)			13,000 円				
住居	ユーロ	月450(ドイツ) / 月400(フランス)			6万円 × 6 / 54000 × 6 円				
食費	ユーロ	月300			4万 × 11 円				
通学に要する交通費	ユーロ	0(ドイツ) / 月30(フランス)			0円 / 4000 × 5 円				
教科書、教材費	ユーロ	0			0 円				
その他大学に支払った経費	ユーロ	健康保険料150(フランス)			2万 円				
光熱費	ユーロ	家賃に含まれる(ドイツ) / 30(フランス)			0円 / 4000 × 6 円				
その他 (旅費)					47万 円				
その他 (食費(生活用品))		月30			4000 × 11 円				
その他 (衣服)					5万 円				
その他 (お土産等)					13万 円				

履修科目名		種類 ^{ex.正規、聴講}	単位数	単位互換認定 申請の有無		
1	Coded space	正規	3Ects	<input type="radio"/>	有	無
2	Design concepts in SciFi movies	正規	3Ects	<input type="radio"/>	有	無
3	Long Design Project	正規	5Ects	<input type="radio"/>	有	無
4	Semiology	正規	2Ects	<input type="radio"/>	有	無
5	Narrative image	正規	3Ects	<input type="radio"/>	有	無
6	International mentoring	正規	4Ects		有	<input type="radio"/> 無
7	Cologne resources	正規	1Ects		有	<input type="radio"/> 無
8	Sketching visual explanations	正規	3Ects		有	<input type="radio"/> 無
9	The Future of Work	正規	3Ects		有	<input type="radio"/> 無
10	Urban Wellbeing	正規	3Ects		有	<input type="radio"/> 無
11	Desktop video	正規	3Ects			<input type="radio"/> 無
12	German for Designers 1	正規	1Ects			<input type="radio"/> 無
13	Metal workshop	正規	1Ects			<input type="radio"/> 無
14	Gute Stube AG	正規	2Ects			<input type="radio"/> 無
15	French Language and Culture	正規	4Ects			<input type="radio"/> 無
16	Visual arts	正規	2Ects			<input type="radio"/> 無
17	International Workshop	正規	3Ects			<input type="radio"/> 無
18	3DS Max	正規	5Ects			<input type="radio"/> 無
19	Solidworks option	正規	3Ects			<input type="radio"/> 無
20	3DS Max option	正規	3Ects			<input type="radio"/> 無
21	Photography option	正規	3Ects			<input type="radio"/> 無

3-1. 授業科目の選択、登録方法

【ケルン応科学大学】

事前に興味のある分野のアンケートに回答し、学校側がひとりひとりの授業を決定
その後、一部の科目の変更や追加を行った

【ナント大西洋デザイン大学】

必修の授業はコースごとに決まっている
それに加え、ソフトウェアの講座やスケッチ、写真などの選択授業を任意で受講できる

3-2. 授業内容、方法に関して	
<p>【ケルン応科学大学】 主にプロジェクト形式の授業が多く、グループワークで作品を作りプレゼンをする 講義形式のディスカッションまたはレポート等がある授業、ソフトウェアや工房機材の使い方の講習の 授業も履修した</p> <p>【ナント大西洋デザイン大学】 メインのプロジェクトワークがあり、その他講義+リサーチ形式の授業や個人でアート作品を作る授業 もあった</p>	
3-3. 語学力について	
<p>【ケルン応科学大学】 留学生が多い学校であるため英語が堪能な人がほとんどだった 最初はディスカッションなどについていくのに苦労したが、慣れていったと思う ドイツ語は、自己紹介や店ででの買い物の際の会話など日常会話を少し覚えた</p> <p>【ナント大西洋デザイン大学】 留学生は英語が流暢だが、フランス人の学生や先生は英語が苦手な人も見受けられた 英語が母国語の友人(カナダ人)がいたため、いい練習になった フランス語は授業があったが、難しくて挨拶程度しか習得できなかった</p>	
3-4. 図書館など学内施設について	
<p>【ケルン応科学大学】 近隣の建物内に大学の図書館があったがあまり利用しなかった 校内に学生が運営するカフェがあり、そのスタッフをしていたこともありよく利用した カフェ前の共有スペースはグループワークや個人で空き時間に利用していた 材料ごとにわかれた工房があり、それぞれに常駐スタッフがいて充実していた</p> <p>【ナント大西洋デザイン大学】 図書館は隣の大学と共有のものがあり、たまに自習に利用した 学食をよく利用した</p>	
3-5. その他	
<p>【ケルン応科学大学】 ドイツの大学では、学生証に定期券の役割が含まれていて市内の交通機関が全て無料だった また、セメスターチケットを印刷すると、州内の特急以外の交通機関も無料で利用できた</p> <p>【ナント大西洋デザイン大学】 ナント市内の文房具屋や画材やで学生証を見せると、デザイン・アート系の学生に対しての割引サー ビスがあった</p>	

4. 生活面
4-1. 住居について
<p>【ケルン】 最初の1ヶ月はAirbnbで滞在し、その間に現地で住居を探した友人と2人でシェアハウスをしていた 個人の部屋がそれぞれあり、リビング・キッチン、水周りは共有</p> <p>【ナント】 1Kのアパートにひとりで住んでいた ナントの日本人留学生を支援するボランティア団体に契約の際など手伝ってもらった</p>
4-2. 食生活について
<p>【ケルン】 昼食は学校近くのパン屋さんやテイクアウトできるレストランに買いに行くことが多かった 夜は基本的には自炊をしていた たまに友人とレストランやバーへ外食に行くこともあった</p> <p>【ナント】 学校ではほぼ毎日学食を利用していた 夜は自炊していた 旅行の時以外は外食に行くことは少なかった</p>
4-3. インターネット環境、携帯電話について
<p>【ケルン】 インターネットはルーターが備え付けであった 携帯電話は現地でSIMカード購入、1ヶ月ごとに支払い</p> <p>【ナント】 インターネット回線はあったが有線だったため、ルーターを自分で設置した SIMカードは新たに購入、1ヶ月ごとに料金引き落とし</p>
4-4. 服装について
<p>【ケルン】 日本とほぼ同じ服装だったが冬は寒かった、ダウンジャケットを現地で購入した</p> <p>【ナント】 日本とほぼ同じ、雨がよくふるためウィンドブレーカーのような薄手のコートが重宝した</p>
4-5. 健康管理について
<p>風邪薬、鎮痛剤、胃腸薬などひととおりの薬を日本から持っていった 1度1週間ほど風邪が長引いたがそれ以外は健康に過ごせた 風邪のひきはじめて薬を飲んでいった</p>

4-6. 保険、OSSMAの利用について	
パリの地下鉄で携帯電話と財布を盗難にあい、加入保険の荷物保証を利用した	
4-7. 課外活動について	
学生割引を利用して美術館や博物館巡りをした	
4-8. 学外のコミュニティとの交流について	
<p>【ケルン】 学外のコミュニティとの交流はほとんどなかった 旅行時に出会った人と友達になり連絡先を交換することはあった</p> <p>【ナント】 日本人留学生を支援するボランティア団体があり、そこで他の日本人留学生たちと出会った 月に1~2回ご飯を一緒に食べたり飲みにいったり、旅行に出かけたりした</p>	
4-9. 日本から持参してよかったもの	
常備薬、マスク 折り畳み傘 日本の調味料 洗顔フォーム 好きなもの(画材・小説) ノート	
4-10. 日本から持参したが不要だったもの	
電子辞書	
4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)	
<p>【ケルン】 気さくでフレンドリーな人が多い 英語が話せる人が多く、ドイツ語が話せなくてもあまり苦労しなかった</p> <p>【ナント】 川沿いで集まってアルコールを飲んだり話したり、自然の中で過ごす時間を大切にしていた 個人の考え方はこだわりがある人が多かったと思う</p>	
4-12. 余暇の過ごし方	
旅行	
オランダ:アムステルダム 2017年9月(3日間)2万円 ベルギー:ブリュッセル・ゲント・ブリュージュ・アントワープ 2017年11月(3日間)3万円 フィンランド:ヘルシンキ・タンペレ 2017年12月(6日間)6万円 イタリア:ミラノ・ヴェネチア・フィレンツェ・ローマ 2018年5月(5日間)5万円 イギリス:ロンドン 2018年5月(3日間)3万円 スペイン:バルセロナ・マラガ・マドリッド 2018年5月(5日間)4万円 モロッコ:フェズ・シャフシャウエン・タンジェ 2018年6月(6日間)4万円 ギリシャ:サントリーニ島・アテネ→ハンガリー:ブダペスト→オーストリア:ウィーン→チェコ:プラハ→ス イス:ツェルマツ・グリンデルワルド・ジュネーブ 2018年6月~7月(20日間)20万円	

その他	*気分転換やストレス発散法など。
友達とスカイプをする 日本食を作る 絵を描く	
5. その他	
5-1. 留学先大学について	
【ケルン応科学大学】 授業の自由度が高く、校風も自由なかんじがあった 少人数制の授業が多かったので、先生にも質問しやすく他の学とも仲良くなれた	
【ナント大西洋デザイン大学】 デザイン系よりもアート系の授業が多かったように思う 模型やプロトタイプを作るよりも3Dグラフィックで作品を表現することが多かった	
5-2. 留学希望者へのアドバイス	
選択できる授業内容は事前によく調べてから留学先大学を決めるといいと思います。	
5-3. 留学を終えて	
ドイツ・フランスの2カ国に留学して、それぞれの違いやいいところ、また日本から離れてみて日本のいいところ悪いところがわかって良かった。ドイツはライフワークバランスがしっかりしているが、役所などの手続きが遅い。意見を主張する。学費が安く学生に対して優しい制度が整っている。フランスは、ストライキで権利を主張する文化があるが、旅行中に電車や飛行機がキャンセルになって苦労した。留学中は日本人の空気を読んで相手を思いやる文化が恋しかった。またコンビニの便利さを思い知った。しかし、ライフワークバランスの改善やチケットや銀行などの電子化はもっと進んでほしいと思う。また自分自身についても、環境が変わったことで変わるところ、変わらないところが見えてきて自分の軸がしっかりしたように思う。	